

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年7月31日(土)

《洗礼者ヨハネの生き方から -自分に与えられた道を忠実に生きていますか?-》

今日の福音(マタイ 14・1 12)を読むといつも、「洗礼者ヨハネの人生をどのように納得すればよいのか。」という思いになります。生まれる時の物語も不思議で、生き方も不思議、死ぬ瞬間も「こんなことがありうるのか」と思われるような死に方をしています。

彼の使命は、ただ“イエス様が来られる道をあらかじめ整えること”だけでした。そして、あのように短い人生でした。しかし、その短い人生の中で、一度も道から外れたことがなく、自分に与えられた人生をまっすぐに歩けた人でした。その結果、このような悲惨な死を迎えたのですが、彼は誰よりも幸せな人物だったのではないかという気持ちがあります。彼の人生と自分自身の人生を比べてみると、思い切って決断し、「自分に与えられた道、正しい道を歩みます。」と何回も何回も約束したはずなのに、いつも正しく歩めた道より外れた道の方が多かったような気がします。しかも「彼は、どのくらいの恵みの中で使命を全うできたのか、最後まで揺るぎない人生を送れたのか。」と考えると、ある意味でうらやましささえ感じます。

さあ皆様、洗礼者ヨハネの生と死を黙想することが、「自分に与えられた人生、その道をどのくらい忠実に生きているか。」を振り返る機会になれば、恵みの時間になるのではないのでしょうか。

また、この洗礼者ヨハネと必ず並べて考えられるのはヘロデです。洗礼者ヨハネとヘロデは極と極のような生き方をしています。ヘロデの生き方は、弱虫のモデルになるような生き方でした。しかし、このヘロデのような心は、私達の中にもあるのではないのでしょうか。それを反省することができれば、それもよい黙想になるでしょう。

私達は、この極端な二つの生き方ではなくて、その真ん中あたりを歩いて行くのかもしれませんが。しかし、少し道から外れることがあっても、「正しい道を歩みたいと望みます。」という強い願いがあれば、正しい道に行けることを絶対に忘れてはいけません。

それが、いろいろな弱さを持っている私達の希望となり、励ましとなるのではないかと思います。

ありがとうございました。